

2 6 3 - 1 4 0 9  
平成 2 2 年 8 月 3 0 日各関係機関の長  
各病虫害防除員 殿

宮崎県農政水産部長

平成 2 2 年度病虫害発生予察警報第 1 号について

平成 2 2 年度病虫害発生予察警報第 1 号を発表したので送付します。

**平成 2 2 年度病虫害発生予察警報第 1 号**平成 2 2 年 8 月 3 0 日  
宮 崎 県病虫害名 トビイロウンカ  
作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域  
2. 発生時期 ー  
3. 発生程度 やや多  
4. 警報発令の根拠

- 1) 県では注意報第 1 号（平成 22 年 7 月 26 日付け）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところであるが、巡回調査（8 月中旬及び下旬：県全域）の結果、依然として発生地域が拡大し、生息密度も高まっている。  
2) 8 月中旬の巡回調査における発生面積率 54.8%（平年 20.1% 前年 64.3%）、株当たり虫数 0.12 頭（平年 0.08 頭 前年 0.66 頭）は、いずれも過去 10 年間で 2 番目であり、坪枯れ等大きな被害が発生した平成 17 年度の数値を上回っている。  
3) 8 月下旬の巡回調査における発生面積率は 64.3%（前年 82.3%）、株当たり虫数は 0.13 頭（前年 2.40 頭）と、さらに増加している。  
4) 向こう 1 ヶ月の長期予報では、気温は高い確率 60% と予想されており、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。（鹿児島地方气象台 8/27 発表）

**5. 防除上の注意**

- 1) トビイロウンカは水田に侵入後 2~3 世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は、幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は防除を行う。  
2) 既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。  
3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので注意する。  
4) 防除薬剤等その他の詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病虫害防除・肥料検査センター等の関係機関に照会すること。  
5) なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については農薬容器のラベル表示の確認を十分に行うなど今まで以上に厳重な注意を払うとともに、農薬使用基準を遵守し危害防止に努める。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

## 《連絡先》

宮崎県農政水産部営農支援課

猪本聡司、櫛間義幸

TEL : 0 9 8 5 - 2 6 - 7 1 3 2

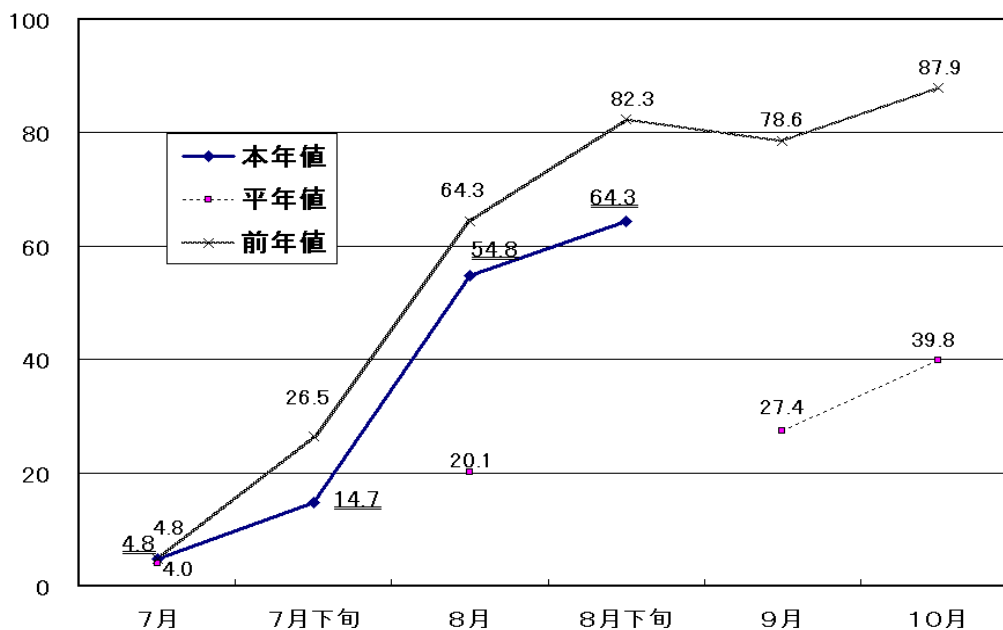
Fax : 0 9 8 5 - 2 6 - 7 3 2 5

E-mail : einoshien@pref.miyazaki.lg.jp

表1 巡回調査における発生状況（8月中旬）

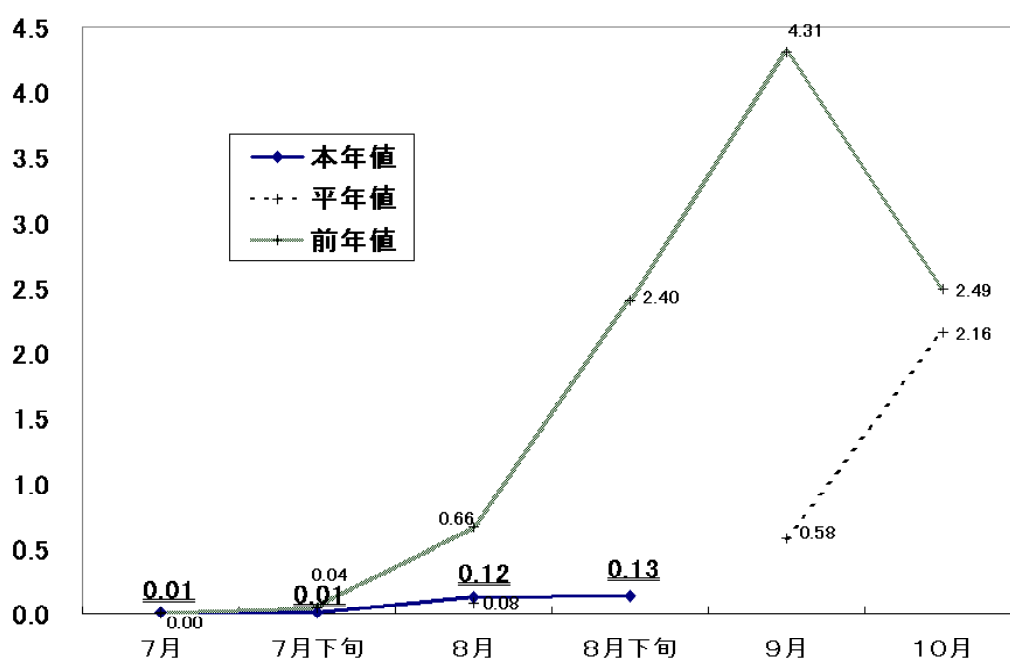
年	発生面積率(%)	株当たり虫数(頭)	短翅型雌成虫率% (短翅型雌成虫/全成虫)
H22	54.8	0.12	81.8
H21	64.3	0.66	87.2
H20	0	0	0
H19	39.4	0.05	80.0
H18	52.4	0.06	33.3
H17	28.6	0.04	0
平年	20.1	0.08	—

図1 発生面積率の推移



※7月下旬、8月下旬については平年値なし。

図2 株当たり虫数の推移



※7月下旬、8月下旬については平年値なし。